放眼日中

中国やインドにないタイの鷹揚さ

タイにはショッピングモールが沢山あり、その中には必ずフードコートがある。B級グルメがずらりと並び、買い物をしなくてもちょっとした食べ物や飲み物で楽しむタイ人、特に暑い時には涼しい場所として大人気となっている。

先日所用があり、そのフードコートで、ある食べ物を注文した。タイのフードコートではまずキャッシャーでプリペイドカードを購入し、そのカードで支払いをする仕組みとなっているが、食べ物を受け取り、カードを渡したところ、「あなたのカードにはお金が入っていない」と言われて困惑した。仕方なくキャッシャーに戻り、そのことを伝えようとしたが、筆者はタイ語を全く解さない。

取り敢えず英語で言ってみたが、混雑していることもあり、最初は相手にしてくれなかった。何度か会話しているうちに私がカードを指して「ノーマネー」と言うと理解はしてくれ、さらに「私がカードを持っている理由はあなたにお金を払ったからだ」と続けると、相手の女性は趣旨を理解した。だが上司に電話しても通じず、とうとう彼女はキャッシャーを閉め、事務所へ向かって行ってしまった。

ただ呆然と立ち尽くしていると、掃除のおばさんがスルスルと近づいてきて、「まずは食べたらどうなの」という雰囲気で話し掛けてきた。でもお金を払わずに食べるわけには？と思っていると、既に料理を作って支払いを待っていたおばさんが笑顔で「こっちに来なよ」という合図をし、本当に食べ物を渡してくれた。

もしこれが、先日行ったインドや長年暮らした中国だったらどうだろうか？ 金銭問題が解決しないお客に食べ物を渡すことなど、ほぼあり得ないだろう。それがタイでは「せっかく作ったのに冷めちゃうよ」という雰囲気で、お互いが笑顔になっている。この違いは一体なんだろうか。小さな出来事だが、素直に感動してしまった。

食べ終わった頃、ようやくキャッシャーの女性が戻ってきて、こともなげにカードを返してきた。そのカードを持って精算すると、さっきのおばさん達がいい笑顔で、「コップクンカー（ありがとう）」と大声で言い、周囲の皆が笑い出した。恐らく、このようなカードのミスは時々あるのだろう。だが、もし筆者が最終的に支払いをせずに立ち去ってしまったら、あのおばさんはどうなるのだろうかと、こちらが心配してしまった。

中国やインドなら、オーナーなど責任者の権力が絶対で逆らうことはできないし、自分のミスで損失が出れば大きな負担を強いられるので、誰しも「事なかれ主義」に陥ることになる。タイの場合はそこが緩く、一般庶民が常識の範囲内で物事を動かし、解決していく力を持っているように思えた。今回バンコックで起こった一連のデモでも、一見権力者に振り回されているように見えた庶民だが、実はしたたかに状況を見て、自らの生活を守っていたのを思い起こす。

さてさて、わが祖国、日本ではこのような場合、どうなるのだろうか。もちろんミスなどないのかもしれないが、マニュアル化された国のおもてなしや如何に。こんなところに各国のお国事情が垣間見えてくる。

コラムニスト・アジアンウオッチャー
須賀　努

すが・つとむ　東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。